

道徳学習指導案

日 時 平成 25 年 5 月 31 日 (金) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3 年 A 組 40 名
場 所 1 年 B 組 教室
授業者 佐々木 亘

1 主題名 謙虚に他に学ぶ心 【2 - (5) 自他の尊重, 寛容, 謙虚】

2 主題設定の理由

(1) 生徒について

進級して 2 カ月, 最高学年としての自覚を持ち, 意欲を持って学校生活を送っている生徒が多い。進路を意識して学習に力を入れる生徒, 大会等に向けて部活動に一生懸命打ち込む生徒, 生徒会や委員会でリーダーとしての役割を果たそうと前向きに活動する生徒など, 学級に所属する 40 人生活の様子を見ると, 何らかの目標を持ち, 自らの向上を目指して日々の学校生活を送っているように感じられる。

一方で, 担任から学級全体を見たときに, 生徒間の横のつながりの弱さを課題として感じている。同じメンバーの学級で 2 年目の生活をスタートさせたわけだが, 4 月に個別面談を行ったとき「みんなで何かをやる時学級の一体感がまだ足りない気がする」ということが男女を問わず多かった。原因の一端に, 持っている意見を主張できずにいる生徒が多くいることが考えられる。

学級内の話し合いの場面で顕著にみられるのが, 発言者の固定化と対立する意見間の議論の少なさである。3~4 人の小グループでの話し合いでは積極的に意見交流を交わし, 多くの生徒が自分の考えや意見をしっかりと持っているにもかかわらず, 学級全体で意見交流をしようという場面ではそれをなかなか主張しようとしなない。自分の主張と対立する意見が出されたとしても, 「まあいいか」と妥協するかのように, 議論を避けてしまう場合も見受けられる。話し合いを経て何らかの結論には達するが, それをいざ学級全員で行動に移そうとしたときになかなか一体感が生まれないという現状は, 学級の多くの生徒が認識しているが, 打開の糸口はリーダーたちもつかんでいないというのが現状である。

異なる意見や価値観を持つ者同士が互いを認め合い, 他者から学ぶ中で自分を見つめ, 変化させていくことで個性は磨かれる。元気があり明るく, 個性豊かで力のある 40 人の生徒たち, 一人ひとりの力をなんとか同じ方向に向け, 行事をはじめとする様々な場面で大きな達成感を味わわせたい, 互いを尊重しながら学び合い高め合う学級づくりを進めたいというのが担任としての願いである。

道徳の授業を通して, 他者を認めそこから学ぼうという謙虚さを大切に, かかわりを通して自身の価値観の再構築を重ねながら主体的に生きようとする姿勢を育てたい。

(2) 価値について

学習指導要領において, 内容項目 2 - (5) は, 「それぞれの個性や立場を尊重し, いろいろなものの方方や考え方があることを理解して, 寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。」としている。

個性とは何かについて正しく理解するとともに, 自らの意思に背いて他に同調するのではなく, 多様な個性を認め, それぞれの差異を尊重するという態度を育てることが大切である。その際, 現実から逃避したり, 今の自分さえよければといった「閉じた個」ではなく, 自己と対話を重ね自分自身を深めつつ, 他者とともに生きるという自制を伴った「開かれた個」が大切であることを理解できるような指導の工夫が必要になる。このような指導を通して, 個性の尊重や寛容の心をもち謙虚に他に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解できるようすることが大切である。

(3) 学びの自覚化について

本研究が掲げる『学びの自覚化』を図るために, 道徳では「自己内対話と他者との対話のサイクル」を通して新たな価値観を再構築させ, 「自分の価値観を言語化させること」を授業内で意識的に行いたいと考える。道徳の時間では, 自分自身への内省的な働きかけとしての「自己内対話」や, 自分の考えの根拠を明らかにして話したり, 他者の考えを聞くことによって自分の考えを深めたりする「他者との対話」が重要な学習活

動となる。そして、それらを通して、現在の自分の価値観と多様な価値観を比較しながら、深まり・広がりを経て起こる新たな価値観の再構築が「道徳的实践力」につながるととらえている。このような自己内対話と他者との対話のサイクルを授業の流れの基本としておさえる。

また、単位時間で扱ったワークシートを道徳ファイルに保存させ、いつでも自身の変容の振り返りができるようにしておく。過去に学習した関連する価値について、いつでも自らの思考過程を振り返ることができるようにしておくことは、自らの変容を確認できる手立てとしても有効な手段の一つではないかと考える。さらに、同一の内容項目や関連する価値についての授業を意図的に続けて行い、それぞれの資料から考えたことを生徒自らが関連付け、改めて価値を再構築する機会を設定することで、生徒が自身の変容をさらに実感しやすくなると考えた。年間指導計画の中で何度かこのような機会を設けて実践するとともに、生徒が振り返りに取り組みやすいワークシートの工夫も同時に行うことで、自分の価値観を言語化する場面を意図的に設定し、学びの自覚化に迫りたい。

3 資料について

(1) 資料名 『「チームQ」の絆』(学研「かけがえのないきみだから」中学生の道徳3年 より)

(2) 資料のあらすじ

本資料は、日本女子陸上選手として初めてオリンピックで金メダルを取った高橋直子選手が、二度目のオリンピックに出場できず、悩み、苦しみながら、それを克服していく姿を描いている。

高橋選手は一つの目標に向かうため、それぞれの役割を持つ3人の仲間と「チームQ」を結成する。チームは互いを尊重し合う中で、様々な苦難を乗り越えながら成長していく。そして、高橋選手は、東京国際女子マラソンで復活の優勝を遂げる。

一人ひとりの個性を尊重し、謙虚に学び合うことにより、自分が成長していくのを感じていく高橋選手の思いが伝わる資料である。

4 本時の展開

(1) ねらい

人それぞれの考え方や立場があることを理解し、自らを振り返って、自己の反省と向上に生かそうとする態度を育てる。

(2) 本時の指導の構想

高橋選手が金メダルを獲得したシドニーオリンピックが開催された2000年、生徒たちは当時1～2才という年齢で、その活躍を知らない生徒も多い。導入は、高橋選手や小出監督の経歴についての資料を配布し、範読を通してさらに資料について深く考えるきっかけとしたい。

展開前半では、チームQの発足に関わる高橋選手の決意や、復帰レースにかける思い、チームQの絆について資料に沿って確認していく。チームQの絆がどのように強まっていったのか、復活優勝を遂げた高橋選手が語った、支えてくれた人たちへの感謝の気持ちについてしっかりと考えさせたい。

展開後半では、チームQの絆やルールに焦点を当て、自分の日常経験と照らし合わせて考えを深めさせたい。小グループでの交流を通して「それぞれが個性を發揮し、言いたいことがあったら直接言い合う」という、個々の成長にとって理想的な環境を作るにはどうすればよいかについて考えさせたい。その中で、互いの立場や考えを尊重することの大切さや、受け入れながら自分を再構築するという姿勢の大切さ、あるいはその難しさについて多くの生徒が自分の考えを表現できるよう、時間を十分に確保して全体交流も行いたい。

終末に、改めて高橋選手から学んだ点について振り返らせながら、自分を高めるために必要な他者との関わり方についての自身の考えをまとめさせる。挙手による発表で意見交流を行い、あらためて他者の考えから学ぶことの大切さを確認して授業を締めくくりたい。

次時は、別頁の資料「まるごと好きです」を活用して同じ内容項目の授業を行う。互いの個性を認め、相手の考えや立場を尊重して、開かれた心で他に学ぼうとする態度を育てることをねらいとし、終末では本時の内容と関連させながら自分の考えをまとめさせる。

2時間の授業を通して、他者とのかかわりの中でいかにによりよい人間関係を構築していくか、また自分らしい生き方を追求していくかについて道徳的に考え、行動しようとする姿勢を育てたいと考える。

(3) 本時の展開

段階	学びの流れ	学びの展開（広がり）	■学びの自覚化とのつながり
導入 15分	1 資料の主役である高橋選手について知る 2 教師の範読で資料の内容をおさえる 3 資料を通して、高橋選手の生き方に学ぶことを確認する	○別配布の資料で、高橋選手や小出監督の経歴などについて知り、資料についての理解を深める土台とする。 ・高橋選手は学生時代小出監督に才能を見出された ・オリンピックでの金メダルや国民栄誉賞の受賞、世界最高記録の樹立などの輝かしい実績を小出監督の指導のもとで残した。 ・その後の挫折から、「チームQ」の設立を決意した ◎高橋尚子選手の復活劇の裏にはどんな背景があったのだろうか	■日本を代表するアスリートの生き方について学ぶことを認識する。
展開 27分	4 チームQの発足から、復活優勝までをたどり、高橋選手やチームQのメンバーの思いについて考える 5 チームQのメンバー同士の関わり方と自分の現状を対比させ、考えを他者と交流する	○高橋選手はどんな思い・決意で「チームQ」を立ち上げたのだろうか。 ・自分自身に厳しくすることが必要と考えたから ・環境を変えて再出発したいと思ったから ○大会当日、チームQのメンバーからの手紙を読みながら「ありがとう、ありがとう」とつぶやいていた高橋選手はどんな気持ちだったのだろうか。 ・これまで支えてくれた仲間への感謝の気持ち ・チームQのメンバーのためにも大会で自分の全てを出し切ろうという決意 ○「ここまでたどりつかせてもらった」という言葉には、高橋選手のどのような思いがこめられているだろうか。 ・「チームQ」の仲間、お世話になった人たちへの感謝 ◎「チームQ」の絆、「チームQ」のルールをどう思うか。（補助発問）高橋選手だからできた特別なことだろうか。 ・互いに高め合う理想的な関係だと思う。 ・言いたいことを言い合えるのはすばらしい ▲対立は避けたいし、周囲の反応が気になって意見を言えない ▲どこかで妥協してしまっている自分がいる ▲自分を否定されるような意見からは目を背けたい ・意見を言っても受け入れてもらえる安心感がほしい ・何も言わないと変わらないのは確かだから、相手のことも考えて、自分の考えを理解してもらえるような伝え方をしたい。 ・気付いたことがあったら言ってほしいということを周りに伝えておくことも必要。同時に、その意見を自分が受け入れる姿勢も必要。	■チームQの姿を理想的にとらえながらも、現実的には他者との関わりについて様々な思いを個々がかかえており、思うような相互理解の関係ができていないことを認識する。 ■シートへの記入や小グループでの交流を通して、互いに成長し合える環境をつくるために必要な要素や自分にできることは何かを考える。
終末 8分	6 自分を成長させるために必要な、他者との関わり方について考える 7 書いた内容を発表する	○授業を通して感じたことや学んだこと、みんなの意見で考えさせられたことについてまとめよう。 ・自分の考えをわかってもらえるように発信したい ・他の人の考えを積極的に聞いて、自分の成長につなげたい。意見を聞き入れようとする姿勢を大切にしたい。 ・自分の考えをどうやったらわかってもらえるか考えながら、しっかり自分の考えを主張できればいいと思う。	■シートへの記入を通して、自分の価値観を再構築しながら、今後の生き方について考える。

【高橋尚子選手の略歴】

岐阜県出身、高校2年で都道府県対抗女子駅伝出場。区間順位は47人中45位

大学在学中

日本インカレ（学生日本一を決める大会）

1993年 1500m 2位 3000m 3位

1994年 1500m 2位 3000m 3位

教師になることを目標に母校の高校で教育実習も行っていたが、陸上への思いも残っていた。高校時代の恩師の勧めと大学の監督の配慮があり、大学4年になって初めて小出監督の所属するチームの合宿に参加する機会を得る。本来大卒者を採用しない会社だったが、小出監督は高橋選手の走りで素質を見抜き、契約社員という条件で入社できることとなった。（1995年）

◎1998年 名古屋国際女子マラソン 当時の日本最高記録でマラソン初優勝
バンコクアジア大会女子マラソン 当時のアジア最高記録で優勝

◎2000年 シドニーオリンピック 金メダル

- ・日本女子陸上界では初
- ・当時のオリンピック最高記録
- ・10月、国民栄誉賞を受賞

◎2001年 ベルリンマラソン

- ・当時の世界新記録（2：19：46）で優勝
※それまでの世界記録はケニアの選手が持っていた（2：20：43）
- ・女子マラソンで世界記録を更新した日本人は高橋選手だけ

.....
2002年11月 肋骨疲労骨折

2003年11月 東京国際女子マラソンで2位となるも、翌年のオリンピック代表選考では落選

2004年 胸部や足首の怪我でマラソン出場機会なし

2005年 5月 「チームQ」設立会見
.....

【小出義雄監督の育成選手】

- [那須川瑞穂](#)（[東京マラソン2009](#) 女子の部優勝）
- [堀江知佳](#)（2002年[北海道マラソン](#)女子の部優勝）
- [佐伯由香里](#)（[世界陸上ベルリン大会](#)女子10000m 代表・2008年北海道マラソン女子の部優勝）
- [原裕美子](#)（2010年北海道マラソン女子の部優勝）
- [新谷仁美](#)（[東京マラソン2007](#) 女子の部優勝）
- [小林祐梨子](#)（[北京オリンピック](#)、[世界陸上ベルリン大会](#)女子5000m 代表）
- [有森裕子](#)（[バルセロナオリンピック](#)女子マラソン銀メダリスト、[アトランタオリンピック](#)女子マラソン銅メダリスト）
- [五十嵐美紀](#)（[バルセロナオリンピック](#)10000m 代表）
- [吉田直美](#)（[世界陸上シュトゥットガルト大会](#)10000m 代表）
- [志水見千子](#)（[アトランタオリンピック](#)5000m4位入賞）
- [鈴木博美](#)（[世界陸上アテネ大会](#)女子マラソン優勝・金メダリスト）
- [高橋尚子](#)（[シドニーオリンピック](#)女子マラソン優勝・金メダリスト）
- [千葉真子](#)（[世界陸上パリ大会](#)女子マラソン銅メダリスト）
- [宮井仁美](#)（[世界陸上ヘルシンキ大会](#)女子10000m 代表）

